

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 20 日 (2007.9.20)

【公表番号】特表 2007-507792 (P2007-507792A)
 【公表日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-012
 【出願番号】特願 2006-533841 (P2006-533841)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/041 3 3 0 D

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 2 日 (2007.8.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

タッチ検出領域を覆う電氣的に連続で光学的に透明な伝導性フィルムと、
 前記伝導性フィルム上にある光学的に透明な自立フレキシブルガラス層と、
 前記伝導性フィルムと前記フレキシブルガラス層に加えられたタッチ入力との間の容量結合によって誘導される信号を検出するよう構成された電気回路とを含み、前記信号が接触位置の決定に使用される容量型タッチセンサー。

【請求項 2】

前記フレキシブルガラス層を伝導性フィルムに接合させるための光学的に透明な接合層をさらに含む、請求項 1 に記載の容量型タッチセンサー。

【請求項 3】

前記フレキシブルガラス層が前記電気回路の少なくとも一部を覆っている、請求項 1 に記載の容量型タッチセンサー。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

図 1 に戻ると、導線 1 3 1 の少なくとも一部は、タッチセンサー中の層またはフィルムの上に配置することができる。たとえば、導線 1 3 1 の少なくとも一部を、基体 1 1 0、伝導性フィルム 1 2 0、またはガラス層 1 6 0 の上に配置することができる。別の例としては、導線 1 3 1 の複数箇所を、タッチセンサー中の種々の複数の層またはフィルムの上に配置することができる。たとえば、導線の一部を伝導性フィルム 1 2 0 上に配置しながら、異なる部分をガラス層 1 6 0 上に配置することができる。さらに別の例としては、ガラス層 1 6 0 と基体 1 1 0 との間などにあり図 1 には示されていない補助層上に導線 1 3 1 を配置することができる。電極 1 3 0 の少なくとも一部を補助層の上に配置することも理解できるであろう。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 3 】

本発明の一態様によると、伝導性接触器具 1 0 1 は、制御装置 1 5 5 などを通してタッチセンサー 1 0 0 と結合させることができる。この結合手段としては、たとえば、図 2 に示される導電性手段 1 6 1 を介した制御装置 1 5 5 などとの電氣的接続を挙げることができる。直接的な電氣的接続によって、バックグラウンドノイズを減少させることができ、それによって信号対雑音比を増加させることができる。接触器具を制御装置と電氣的に接続することの利点の 1 つは、接触により誘導されるより小さな信号を制御装置が検出できるため、ガラス層 1 6 0 の厚さを増加させることが可能なことである。導電性手段 1 6 1 としては、たとえば導線を挙げることができる。